

28年度総会 大阪で開催 全国より123名が参集

共に築こう鉄鋼流通の未来

6月10日(金)大阪市「ホテル日航大阪」において平成28年度定時総会が開催された。大阪での開催は6年度、15年度に続き3回目となる。総会議事では提出議題がすべて承認された。なかでも本年度の活動方針について阪上会長から「事業承継」「各種予算措置と税制措置」「外国人研修制度の改善」「ミルシートの取り扱いについて」の4点について説明し、行政など関係各方面に働きかけていくこととした(詳細後述)。総会終了後、講師に(株)双日総合研究所チーフエコノミスト・吉崎達彦氏を迎え「どうなる今後の日本経済」と題する講演会を行った。その後、会場を同ホテル32階の「スカイテラス」に移し、懇親会となった。はじめに阪上会長が「私の出身団体・大阪鉄鋼流通協会(O S A)がホスト団体となつての開催である。この会は若手が増えているので『元気な懇親会』をテーマにしようと思った」と述べていた。来賓として挨拶した鉄流懇の石川逸弥会長(J F Eスチール専務執行役員)は「私どもメーカーは全鉄連をはじめとした流通のみなさんの活動を今後とも側面支援していきたい」とエールを送った。冒頭挨拶を引き取って同会の井上副会長が「大阪は派手で賑やかで元気というイメージがあると思うので、そのような雰囲気を持ち帰ってほしい」と挨拶した。約2時間歓談の後、次回開催地の東北鉄鋼販売業連合会・齊藤会長が「すでに来年の準備を始めている。仙台市内のホテルで6月2日に開催する予定。東北らしいおもてなしでみなさんをお迎えしたい」と述べていた。懇親会の締めはO S A中村副会長が「大阪は文化、文芸をいくしむ歴史があることを理解してほしい」と述べ、大阪締めを音頭をとって、閉会となった。

関連会議報告 金属課ヒアリング

金属課に改称しての初会合

出席(経済産業省)山下課長・成瀬課長補佐他3名(全鉄連)阪上・齊藤・林・山岸・南・澁井・星野

6月22日(水)午後4時より経済産業省内で金属課ヒアリングが開催された。この会合は同課が来期の鉄鋼需要見通しを策定するに当たり、流通の状況を聴取し、参考にするため4半期に1度、定期的に開催されている。なお、6月17日付けで鉄鋼課と非鉄金属課が統合され金属課として発足。

ヒアリングの席上、全鉄連からは「一般的に7～9月は前期の横這いで推移。需要の出遅れを引きずり、メーカー値上げに追従できず、採算確保が難しくなる」との見解が述べられた。金属課からは「名称は変わったが、これまで通りご協力をお願いしたい」との挨拶があり「7～9月は盛り返すと思うがこの4～6月が予想以上に悪かったので、回復しているという景況感を持ってないかもしれない」と見通しを述べていた。

第437回鉄流懇概況

憂慮されるメーカー値上げ

7月25日(月)午後2時30分より東京・茅場町「鉄鋼会館811号室」において鉄鋼流通問題懇談会(略称・鉄流懇)が開催された。当日は全鉄連から阪上会長、齊藤(栄)・林両副会長、齋藤(芳)、南、山岸の各常任理事が出席した。この会合は3ヶ月に1回定期的に行われ、経済産業省、メーカー(J F Eスチール)、商社も出席している。

会議の席上、全鉄連から「需要は全体感として良くなっているものはなく、悪い分野は悪いまま横這

っている」「市況動向では鉄筋がボトムより1万円ほど高い水準で維持されている。鋼板はようやく下げ止まったが、上昇に転じる動きはない」「北陸には元気な中小企業が多い。観光バスの製造が多忙となっている。北陸新幹線が大阪まで開通するには後25年掛かるそうだ」「東北では昨年からは土木を中心として需要が落ちている。この6月は体感として震災以後、最低の荷動きだった。鉄骨が低迷状態で、10月以降の仕事を探している状態。その一方で、50～100トンの中小案件が出始めている」「ゼネコンが利益を上げているのは無理な受注をしていないからだ。産機は一時の勢いはなく、太陽光発電関連もかなり落ち込んでいる」などの発言があり、それを総括して阪上会長は「会議資料として提出した全鉄連業況アンケート結果が今の状態を良く表している。需給は安定化の方向にあり、適正の範疇に入ってきた。収益動向もまあまあ健闘している。形鋼は現状、値戻し前の安値になってしまい、高値玉が流通在庫になっている。鋼板はメーカー値上げ発表から実行に移される動きとなっている。これらを市場で転嫁できるか、懸念されている。これまでなんとか収益を確保してきたが、先々、不採算に陥る可能性がある」と市場環境がやっと落ち着きを見せてはいるが、メーカー値上げに追従できる状況にはないことを指摘していた。

経済産業省金属課からはこのたびの組織変更について「6月17日付で鉄鋼課と非鉄金属課が統合し、金属課が新設された。金属を取り巻く通商措置の増加といった諸課題に、適切な政策を一体的に実施していく観点から金属課を新設した」とポイントを述べていた。

鉄流懇・石川会長（JFEスチール）は「鋼材流通の収益を見ると、何とか維持させている。今後、製品の仕入れ価格が上昇するが、流通はどう対処するかである。メーカーとしては適正在庫の維持に注力する」と述べていた。

大阪で初開催

第13回鉄鋼営業社員研修講座

鉄流懇に先立ち常任理事会が開催され、当面の全鉄連運営について協議した。そのなかで毎年開催されている鉄鋼中堅営業社員研修講座の実施大枠が下記のとおり決定した。

とき 11月11日（金）午前9時30分より

会場 大阪鉄鋼会館

カリキュラム編成、講師招請など実施詳細は今後、詰めていくことになった。なお、本講座は今回で13回目となり、東京以外での開催は初めてとなる。

金属課に要望書提出

4つの課題の改善を働きかける

総会において本年度活動方針を採択したことを引き継ぎ、全鉄連は経済産業省製造産業局金属課へ要望書を提出。当会会員を含め鉄鋼流通がおかれている現状について、理解を求めた。要望の骨子は以下の4点である。「事業承継については、相続に関する様々な制度があるが非常に使いづらい、単純に株式評価を下げてもらいたい」「各種助成金は業界でもこれを活用した設備更新がけっこう行われている。これからも継続してほしい」「外国人研修制度の改善は期間が一部の業界で3年から5年に延長されたが3年で一時帰国させ、再度申請しなければならない。初めの3年間も語学研修、帰国の準備などを含めると実質2年半しかない。これでは技術習得という点でも短いのではないか」「ミルシートの取り扱いについては、非常に手間とコストが掛かるため有料化を求める声がある。だが、全鉄連活動としてこれを推進すれば問題視される可能性がある。この実態を行政にご理解いただき改善策を模索したい」と多岐にわたっているが、あえて会員各社の実態反映という意味もあり、このような要望となった。

7月業況アンケート結果 前年割れの状況続き、停滞感払拭できず

この調査は全鉄連理事・幹事会社151社を対象に毎月実施している。数量調査ではないが、鋼材市場の現状が結果に現れている。回答71社（47.1%）

$$*DI=A \times 2 + B \times 1 - D \times 1 - E \times 2$$

問1 6月の売上数量・金額の前年同月比

	A10%以上増	B5%以上増	C ほぼ横ばい	D5%以上減	E10%以上減	計・DI	前回実績
売上数量(%)	12(17%)	7(10%)	28(39%)	10(14%)	14(20%)	71・-10	59・-41
売上金額(%)	9(13%)	3(4%)	32(45%)	10(14%)	17(24%)	71・-32	59・-47

問2 7月販売量の前月比

	A かなり増加	B やや増加	C ほぼ横ばい	D やや減少	E 減少	計・DI	前回実績
公共建設	1	4	28	13	4	50・-30	44・-36
民間建設	3	6	32	13	2	56・-9	51・-2
自動車		4	25	4	1	34・-6	27・-15
その他需要家	3	4	42	12	1	62・-6	54・-11
仲間取引	1	6	35	12	5	59・-24	48・-25
計・比率	8(3%)	24(9%)	162(62%)	54(21%)	13(5%)	261・-15	224・-17

問3 6月の企業収益状況

	A 黒字	B 若干黒字	C 収支トントン	D 若干赤字	E 赤字	計・DI	前回実績
収益状況(%)	15(21%)	26(37%)	21(30%)	6(9%)	2(3%)	70・+66	59・+15

問4 8～10月の需要動向予測

	A 増加	B 微増	C ほぼ横ばい	D 微減	E 減少	計・DI	前回実績
需要動向予測	1(2%)	36(51%)	29(41%)	3(4%)	1(2%)	70・+47	59・+54

各地区団体活動報告

東京鉄鋼販売業連合会（齊藤栄一会長）

6月23日（木）ハロー会議室・茅場町で「いま話題の IOT とは？IT の未来からビジネスのヒントを探る」と題する講演会を開催。34社41名が聴講した。

東北鉄鋼販売業連合会（齊藤芳郎会長）

①6月17日（金）仙台市内「パレスへいあん」

にて28年度第1回例会を開催。

②第36回親睦ソフトボール大会を9月3日（土）仙台市熊ヶ根コミュニティで開催の予定。

北海道鋼友会（今井國雄会長）

8月2日（火）28年度第1回担当者部会を札幌市内の札幌アспенホテルで開催した。

（了）